

養父市の最も重要な資源は、人材である。人が宝であり、人財の育成が、養父市の未来を照らし、希望を現実に変える。

平成 22 年の養父市立学校整備計画委員会の答申から 15 年が経過し、当時の社会情勢と現在とは隔世の感がある。5 年前のコロナの流行と対応によって、大きく変化した社会の状況に加えて、急速なデジタル化と不安定さを増す世界情勢、予測を上回る出生数の減少は、将来の経済的・社会的不安定さに直結する喫緊の課題となっている。まさしく、VUCA の時代の到来である。

今後も、加速度的に変化をしていく時代にあって、「教育」及び「学校園所」には、子どもたちが、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくための力や様々な情報を見極め、新たな価値につなぐことができる力、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができる力や自他のウェルビーイングを実現する力を育成することが求められている。

「教育はまちづくりの根幹である」と捉え、これからの Society5.0 におけるサイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた時代においても、予測困難な VUCA の時代においても、持続可能な社会と幸福な人生の創り手として、自身と地域の未来を拓いていく資質と能力を備えた人を育む教育と、0 才から高齢者までの「学びのあふれる教育環境づくり」の実現に向けて養父市の教育の革新が必要となっている。

それには、これからの子どもたちに求められる「生きる力」を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた徹底した授業改善と、その学びを実現するための環境の整備が必須である。

そこで、養父市では子どもたちの真正な学びのある養父市の学校をめざす。その手掛かりとして探求のサイクルとデジタル学習基盤を活用し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を具現化した教室、学びの場づくりに向けた取組を推進する。

また、多様で包括性のある集団の中で切磋琢磨し、互いの良さを認め合い、それぞれの個性を躊躇なく発揮し「学びと育ちを楽しむ仲間」となり、「生きる力」を身体的資本として備えた人づくりをめざし、子どもたちのニーズに応じた学び、探究的な学びを後押しできる学校園所の整備を進めていく。

平成 22 年の答申を受け、平成 23 年 3 月に養父市保育所等整備計画検討委員会から「保育所等施設整備計画の策定に関する報告書」、養父市・養父市教育委員会から「養父市学校整備（再編）計画」が策定された。加えて、令和 4 年 12 月に「養父市教育のあり方検討委員会」から答申が示され、今後の養父市の教育推進の指針としたところである。

上記の課題と、従前からの整備計画、「養父市教育のあり方検討委員答申」等も踏まえながら、今後の養父市の子どもたちの学びを支え、推進することができる学校園所の整備に向け、検討・審議いただきたく「養父市教育（学校園所）のあり方検討委員会」を設置する。